

平成24年度 同好会事業報告

理 科 同 好 会 世話係名 湯本 正 芳 会長名 北澤 佳一

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参加人員
8 月 1 日	夏期講習会（上級CST養成プログラム）①	10名
8 月 2 日	夏期講習会（上級CST養成プログラム）②	8名
8 月 7 日	上級CSTによるサイエンス・ミーティング	4名
1 月 2 2 日	実験講習会	10名

理科同好会は、五月一日（火）に会員十六名で発足しました。

今年度の夏期講習会は、例年と違って上級コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラムと連携して開催することができました。

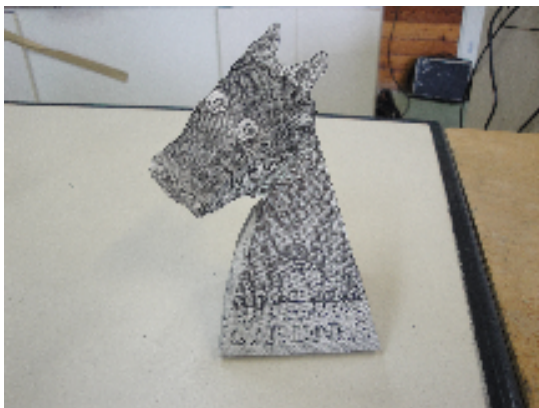
八月一日（水）は、信州大学教育学部教授村松久和先生を講師に迎え、「物質の三態と状態変化」の講義を行っていただきました。まず、粒子間に働く力に注目して、物質の三態と粒子の運動を結びつけて考えていきました。その中で、原子・分子の概念をどのように授業の中で導入していけばよいか、理解を深めることができました。また、液体窒素をつかった酸素の状態変化を実演していただきながら、液体酸素の色がスカイブルーに見える理由や磁石にくっつく理由をわかりやすく説明していただきました。最後は、液体窒素で冷却した霧箱で放射線の観察をしました。放射線の人体へ及ぼす影響を考えながら放射線生物学についても学ぶことができました。

八月二日（木）は、信州大学教育学部准教授坂口雅彦先生を講師に迎え、「感覚の不思議」の講義を行っていただきました。普段当たり前と思っている感覚が実はとても不思議な面を持っていることを、紙に印刷されたドラゴンの立体模型が動いて見える錯視をはじめ、ミラクルフルーツを舐めるとすっぱいものが甘く感じる錯覚を体験しながら深く考えることができました。とても貴重な体験の中で、感覚の不思議を探る楽しさをあらため

て実感しました。上級コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラムは、両日とも、授業に役立つ内容で、とても中身の濃い会になりました。

上級コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラムで学んだことをいかして、年々減少している「理科好き」な子どもたちを少しでも増やせるように、理科の面白さや奥深さを子どもたちに伝えたいと決意を新たにしました夏期講習会でした。

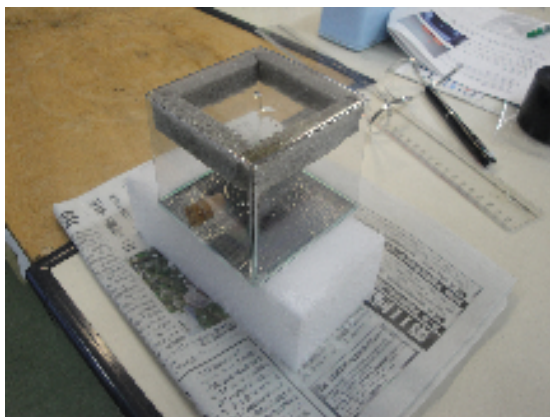
（会長 北澤 佳一）



ドラゴンの立体模型



ミラクルフルーツ



霧箱